

## 令和3年度第2回四日市市総合教育会議

令和4年1月26日

午前9時00分 開会

### 1 開会

○佐藤政策推進部長 おはようございます。

定刻となりましたので、令和3年度2回目の総合教育会議を開催させていただきたいと思っております。

司会は、私がさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

さて、本日の議題でございますけれども、事項書でございますように新図書館の整備に向けてとさせていただきますので、よろしくお願いいたします。1時間ちょっとをめでに終了させていただけるように進めさせていただきたいと思っております。

また、毎度のことでございますけれども、この会議は公開ということになってございます。今のところ傍聴者はございませんけれども、後ほど取材等がある場合もございますので、よろしくお願いいたしますと思っております。

それからまた、コロナの感染拡大が続いておりますので、換気をさせていただいている関係で、少し寒いかわかりませんが、よろしくお願いいたします。

早速、事項書に基づきまして進めさせていただきたいと思っております。

### 2 新図書館の整備に向けて

○佐藤政策推進部長 まず、新図書館の整備につきまして、中心市街地の拠点施設の整備をしていこうということで、その中核の施設といたしまして図書館を位置づけてございます。新聞報道等でもご存じかと思っておりますけれども、現在、スターアイランドの跡地を候補地といたしまして、実際に土地の所有者でございます近鉄不動産株式会社、近鉄グループホールディングス株式会社と協議を進めているところでございます。

具体的にどういう格好になりますかといいますと、建物の全体に関する設計、計画については近鉄グループが計画して、その中の一部の床を購入して、市の図書館などがそこへ入居していくといった計画をもってございますので、入居する図書館部分については市で発注して基本計画を進めてございます。近鉄グループとしては、建物全体の基本計画を現

を進めているところでございます。その中で双方の計画をすり合わせながら調整していきまして、実際にここへ図書館を立地させることができるかどうかというのを、今まさにやっているところでございます。

それともう1点、バスタ等を含めまして、近鉄四日市駅からJR四日市駅にかけての中央通りの再編という格好で都市整備を本格的に進めておりますので、それに合わせまして図書館も一緒に、中核的な施設として整備していこうということで協議を進めているところでございます。

本日は、この図書館につきまして進捗状況をご紹介させていただきながら、新図書館に対して教育委員の皆さんから、もっとこういったことを考えたらいんじゃないかとかいったご意見を頂いていきたいなと思っていますので、よろしくお願いいたしたいと思えます。

まず最初に、事務局から資料を説明させていただきたいと思えます。

お願いします。

**○田中政策推進課課長** おはようございます。政策推進課長の田中と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

資料の説明に先立ちまして、今日お配りいたしておる資料につきましては、事項書と名簿と配席図というところがありつつ、今から説明で使う資料というのが、「議員説明会資料（抜粋）」と書きました横長A3の資料と、補足的にワンペーパー、「主な意見」というA4の1枚がついておりますので、順番に説明させていただきます。

まずは、「議員説明会資料」という表紙となっておりますものをご覧ください。

これは、去る1月21日に議会向けに説明させていただいた資料から、新図書館整備のご報告に関するページを抜粋したものでございます。

表紙をめくっていただきまして、2ページから説明させていただきます。

新図書館整備に向けた検討・協議の現状のご報告という形になります。結論から申しますと、まだ、こういう建物になるよというような報告というか、まとまったものに至っておりません。あくまでも現状の経過報告ということでご理解ください。

2ページ左側の1番、本年度、令和3年度における近鉄グループとの協議の経過でございます。

新図書館を含む複合施設を整備するということで、市の私ども政策推進課で今年度、基本計画を策定するための予算を頂戴いたしまして、策定支援の業務の設計会社も選定いた

しまして進めているところです。

(2) の近鉄との協議経過でございます。

近鉄グループの中では、近鉄不動産が主となるんですけども、グループとして判断するというので、近鉄グループとしましては、スターアイランド跡地にはその場にふさわしい、ランドマークとなるような建物を建てていきたいと思っておられるところです。様々な検討を行っている中で、この中に新図書館などを組み入れるプランについても、市と近鉄双方で、どうしていくのがいいだろうという協議を行っているところです。

今年度の進め方としまして、今年度の前半は、近鉄グループもコロナの影響等もありまして協議が進みづらかったところがあるんですが、10月以降定期的に協議をしております。近鉄グループも、一緒に計画を練るための設計業者も選定しまして、具体的なことも視野に入れながら協議を進めているところです。

下のほうにスターアイランド跡地の現状というのが、申すまでもないかもしれませんが、現状は暫定的な利用ということで、コインパーキング及びちょっとしたイベントもできるような空間ということで、近鉄不動産が駐車場を供用しているところです。

2 ページの右側、(3) 新たな建築物についての検討でございます。

これは双方の基本的な考え方ですけども、近鉄グループは、どのようなプランがいいのかということや費用負担の考え方ということ、私どもと色々な想定を入れながら考えているところです。私どもからは、図書館が入るとすればこれぐらいの床面積が目安として考えられるということも入れながら進めているところです。

①で、新図書館等整備のスキームと書いてございます。近鉄不動産が土地をもともと持っていますので、新たな建築物は近鉄不動産が建てると。そのうち、新図書館等が入る部分の専有床を市が買うという形になります。その床に関わる部分の土地代はどうかといいますと、定期借地権という形で土地の権利を市が持ちまして、その地代を近鉄グループに払うというのが基本的な土地と建物の考え方でございます。

②の費用負担の基本的な考え方です。最終的には、具体的にいろいろ設計しながら考えていく部分になるんですけども、大きな仕分けとしましては、表に書いてございますように、近鉄がこの建物内にどのような用途を入れるかというのはまだ未定でございます。市は、新図書館や多世代交流施設というものを入れることになります。あと、共用部分というのがたくさん生じてございます。エントランスとか廊下とか、階段、エレベーター、エスカレーターなどの縦の移動にまつわるもの、建物の外側にしても、共有となるような

歩行者空間や広場的なものも考え得るところであります。共用部分につきましては、按分して費用負担をしていくところもありますし、新図書館等が入ることによって建物の荷重とかいったもののグレードが上がる部分については、応分の計算をしまして市が負担していく方向性というのを検討しておるところでございます。

めくっていただきまして、3ページになります。

3ページの左側、(4) 新たな建築物内における公共施設の配置(案)について書かせていただいております。

現時点では、どのような形状の建物になるかというのは、近鉄グループさんではまだ決定事項まで至っておりませんので、建物の外観というのがわからないですけれども、建物の容積率、延床面積の考え方を、中段のイメージ図というところで書いてございます。

民間施設については、容積率600%であります。あと、青く塗ったところが、新図書館を含む公共施設であったり、新図書館とともに整備する利便施設で、その部分を容積率500%。都市計画上の立地適正化計画に基づいて容積率を上乗せできるというところで、その部分についてどういうふうにしていくかというのを検討していかなければならないところです。

矢印で白い四角がつながっていますけれども、要検討事項としまして、各フロアをどのようにすみ分けていくかというところです。何階の部分に図書館が入るのかとか、そのフロア全部が図書館なのか、場合によっては機能ですみ分けをしたり混在をしたりというところで、いろんな選択肢があり得るところです。

それに伴いまして、上下移動、エレベーターやエスカレーター等の位置をどうしていくか。それによって上下のフロアの使い方の便利さというのも変わってくるものですから、一概に言えないところがありまして、様々な可能性を検討する中で、どれが一番いいだろうということを検討していくところです。

3ページの右側になります。新図書館の概要検討で、これは現時点ではあくまでもフロア構成を考えるための目安的な参考値ということになります。

新図書館や多世代交流施設で要る分の面積を目安として置きまして、これが各フロアにどのようにはめていけるかということになっております。当然、現在の図書館よりも収容能力は格段にアップすると考えているところです。

めくっていただきまして、4ページになります。

4ページ左側になりますけれども、(2) 駐車場整備の考え方でございます。

これについては、現時点でまだ定まった、かっちりした数字が出ておるということではございません。そもそも、新図書館整備でこの市の庁舎の東側広場を整備場所と想定した時点で、駐車場の必要台数というのを想定でつくっておりました。そこから立地条件が変わってくるということであるとか、コロナ禍での利用状況の変化とか、様々な状況変化がございますので、従来の想定から更新しまして、また新たな検討をしていく必要があるというところの問題意識が書いてございます。

足りない部分というか、それをどうやって考えていくかというところが、②以降に幾つか書いてございます。

【1】には、くすの木パーキングという地下駐車場の余力を活かすということ、【2】は、様々な考え方の中で、その建物自体でどうしても備えなければいけない駐車スペースについては整備しないといけないということがあるとともに、中心市街地には既に大小様々な既存の時間貸しの駐車場がありますので、それを利用するという考え方。さらには、中心市街地自体の中で新たな駐車施設ということも考え得るところでございます。最終的には、想定台数を考える中で様々な手法を組み合わせる必要があろうかと思っておりますけれども、現時点ではそのような選択肢があるというような整理を書かせていただいた次第です。

4ページの右側です。今後の進め方です。

今年度の基本計画策定については、協議を本格的にするスタートがちょっと遅れてきた影響で、今年度中に協議が整うという状況には至らないところです。ただ、現在も協議を重ねているところですので、それを継続しながら、合意が得られた時点で来年度中に基本協定を結びまして、設計の段階、基本設計という段階に持っていきたいというところです。その時点で、議会にも基本設計を行うための予算を上程しまして、それを合意していただきながら、次の段階に進んでいきたい。

大きな流れとしましては、基本計画から基本設計、実施設計、工事に至るという流れとなっております。都度都度、近鉄と市との両者の合意をするための取り交わしをしながら具体化していこうということになってございます。

あともう1つ、ワンペーパーを資料として配らせていただきましたものを説明させていただきます。

さきに、1月21日に議員説明会ということで説明させていただきました。その場で出たご意見の概要をまとめさせていただいたものになります。

駐車場の整備につきましては、駐車場を造ってそちらに誘導するというよりは、人の流

れを生むために、今までのいろんな駐車スペースを使ってもらおうとか、公共交通機関を使ってもらおうというのがいいというご意見と、やはり駐車場は必要だというご意見、両方あったところです。

民間施設の機能につきましては、にぎわいを創出するような使い方というのが本来でないかというご意見とか、例えば保育所とかいったものもそこに入る可能性はどうだろうかというご意見。

整備スキームにつきましては、民間の事業者と市と一緒にやっていくという中で、相手方との協議の姿勢についてご意見を頂いているということとか、定期借地権ということについて、もうちょっと今後の予算とか施設の年限みたいなことも意識する必要があるところです。

今後の進め方については、現時点では、私どもまだ協議が整っていないという状況で、市のイメージだけを言うということではなくて、今後も節目節目で説明していくように。ただ、説明したから、これが既定路線というわけではないという市議会からのご意見を頂いた次第です。

資料の説明については以上でございます。

こちら、今日の資料ということで報告させていただきましたけれども、今後は、不動産の話というよりは、新図書館自体の話に軸足を移していけるように取り組んでまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

長くなりましたが、資料の説明は以上でございます。

**○佐藤政策推進部長** ありがとうございます。

建物全体の用途とか、どんな箱になってくるかというのは、具体的にまだ決まっていないという中で、申し訳ないですけれども、今、近鉄グループとはしっかりと協議を進めてございます。若干遅れてはいるものの、決して後退している状況ではないと私どもも思っております。

外枠を固めながらも、そろそろ図書館そのものがどういう内容になったらいいのかとかいうところの議論も併せて深めていく必要がありますので、そういったことに関しましてご質問、ご意見等頂けたらなと思いますので、よろしく願いいたします。

どなたからでも結構でございます。

**○伊藤教育委員** 初歩的なことを聞かせてください。

先ほども説明ありましたように、市庁舎東側、この広場を使った中心市街地の拠点施設

整備基本計画の中で、図書館の基本計画も、以前の、新しい図書館に向けての、こういう図書館にしたいといういろんな話合いがあって基本計画があると。その中で、自分が覚えているのは、滞在型の図書館機能を核とした、例えば憩いの広場とかを入れながらこういう図書館をつくっていかうという構想があったと思うんですが、それは基本的に今生きていて、そして、場所は変わったけれども、それに応じて考えていくという状況なのか、それともかなり変えていかなきゃならないという捉え方の状況なのか、そのあたりは、以前の基本計画はどうなんでしょうか。

**○田中政策推進課課長** 政策推進課の田中です。

以前の、平成30年当時の基本計画の基本的な考え方というのは当然引き継がれています。滞在型図書館ということで、それぞれのエリアを上手に構成して、それぞれの世代とか利用者のニーズに応じた、ゆっくり憩えるとかサードプレイスのな図書館というところは引き継いでおります。

ただ、前ですと市が建てる建物という形だったのが、民間と共存する建物になりますので、その考え方をどう効果的にそこに配置していくか、動線上の計画とかいうところについて考えていく必要があります。

施主である民間の業者のほうでも、どうやったら相乗効果が生まれるのかということにやはり関心がありますので、今までの考え方をより具体的に推し進めていくために、考えを深めていく必要があるなという認識です。

**○佐藤政策推進部長** よろしいですか。

**○伊藤教育委員** はい。

**○佐藤政策推進部長** あとはいかがでしょうか。何でも結構です。

**○伊藤教育委員** あの基本計画の4つの図書館の基本構想というのはとてもよく考えられているというか、ぜひ進めてほしいなと思ひまして。

ただ、時代とともに図書館に対するニーズというのは変わってきているということもあります。そういったところで、今後どんなふうを考えていかなというのはあるんですけども、自分の希望としては、やはりまずは施設としての充実を図るというのは当然だと思うんですが、あと、人と、図書館ですから蔵書中心になると思うんですが、資料だと思ひます。

ただ、1つ、自分自身も図書館を利用して、もっとうあつたらいいだろうと思うのは、やっぱりレファレンス機能の強化というのは感じるがよくあります。子供た

ちにとっても、課題追及するとか調べるとか、学習を支援するといったところのアドバイスをしていただける機能というのが、図書館には今後より必要になってくるし、そのリクエストへの対応というんですかね、そのあたりはぜひ強化していただけたらなという思いを持っています。

もう1つ、近鉄四日市という交通のターミナルにあって、そして、1階にある模型も来る前に見たんですが、かなりの整備をされるということがあって、どんな状況になるのかなと思うんです。あそこだからこその整備の仕方とか図書館のつくり方というのはあると思うので、そういう意味で、四日市の強みというか、ならではの図書館のつくり方というのはあると思うんです。

駅前図書館というのは全国的に幾つかあるとは思いますが、こういうふうな市の中央図書館として駅前で整備しているというのは、実際どんな例があって、どんなふうな状況かなというのは、少し気になるところがあるんです。

というのは、図書館として一つあるときは、そこへ人が集まったり、いろいろ構想ができますけれども、やっぱり駅前といたら、いろんなことを考えていかなきゃならない。例えば防災上のこともあるし、バリアフリー的なこともさらにあると思います。

バリアフリーにした場合に、特にああいったところで、例えば今くすの木とか出ているけれども、当然車で行かれることがこれからウエートとしてはずっと多くなると思うんですね。いくらバスターミナルが整備されたりどうこうといっても、やっぱり車で行きたいということも出てくるし、借りた図書が結構重たいということもあるでしょう。そうやって考えたときに、バリアフリー的な、障害のある方とかお子さん連れとか高齢者の利用というのは相当ウエートが高いのではないかと。そういうことを考えると、行きやすい図書館という意味では、その整備というのは必須になって。資料にも書いていただいていますけれども、動線という意味でどう整備できるのかなというのがすごく気になるところです。

そういうことで幾つか気になることも、資料を見せてもらいながら思っております。

これといった意見というものではないですけども、感じたことで話させてもらいました。

**○佐藤政策推進部長** ありがとうございます。

今おっしゃっていただきました図書館としての一番大事なところ、人がきちっと支援できるような体制、それから資料とかの中身ですね。その辺は当然踏まえた上で検討は進めておるところでございますし、あと、交通ターミナルの中の駅前図書館と中央図書館がき

ちっと両立できるのかなという、そんな感じかなと思います。

バリアフリーなんかにしても、交通弱者の方とかいろんな方がおみえになりますので、駐車場が本体の建屋につけられないとかいうことでは駄目だろうと思っています。

そういったことを含めまして、いろいろと建物の協議は進めているところですけども、その辺、何かありますか。

**○田中政策推進課課長** 政策推進課、田中です。

ご指摘、一つ一つそのとおりでと思います。それらを両立するような設計というのを最終的にはしていかなければならないところです。

あと、新しい図書館という中で、他市もいろいろ、最近も図書館がオープンしているという中で、駅前に中央館というか本館が来るというのは悩ましいというか。ある意味、駅前のにぎわいのための、用途を特化した分館という例はたくさんあるなと拝見しておるところですけども、先ほどレファレンスとかも頂きましたけれども、本館としてのしっかりとした機能を持ちつつ、交通結節点だから来る一見さん的なお客さんもみえれば、しっかりと腰を据えて読みたいとか、高齢者や障害者の方もこちらでじっくり読みたいという、両方のニーズというのが混在するのをエリアとしてどう考えるか、動線をどうきれいに分担するかというようなところで、簡単ではないとは思いますがけれども、それらをどうフロアをうちのほうで確保するかによって工夫できるかというのが大事な検討事項かなと思っています。

**○佐藤政策推進部長** その辺、ご意見を踏まえましてしっかりとやってまいりたいと思います。

**○伊藤教育委員** ぜひお願いします。

**○佐藤政策推進部長** ほか、いかがでしょうか。

豊田委員、どうぞ。

**○豊田教育委員** 少し、教えていただきたいんですけども。

ここに新図書館の構想ができたとき、コロナのことがあまり考えられずにとというか、ない状況でスタートしていて、今ここのご説明の中でも、利用動向の変化があると。実際のところ、どういう変化があって、この新図書館にはそこをどういうふうに盛り込んで。先行き見えないので難しいとは思んですけども、どういうふうに捉えられているのかを教えていただければと思います。

**○佐藤政策推進部長** 利用動向の変化等ですね。

○**田中政策推進課課長** 政策推進課田中です。

コロナ後というのは、どれぐらい、何が回復していくかというのは、実は答えがないというか、悩ましいところでございます。

現状、どうしても人が出控える中で、来館者的には減少の部分があるけれども、やはりこういう中になってくると、読書というのはある種大事になってくる部分があつて。こういう時節柄、お一人がたくさん借りて本をじっくり読もうとかいうようなところで、読書自身に対して関心が高まっているのも一方であるところです。その辺の状況の変化が、今日の資料で問題提起だけしておりますけれども、駐車場とかいう部分の考え方というのがなかなか読みづらいという悩ましさが私どもにあります。安全側で多めにつくれば、それでいいのかというふうに極論にもなれないところがあります。

ただ、学生さんとかが来やすくなる分については、必ずしも利用者の増が駐車台数の増に直結しないというところで、どの程度駐車台数の伸びを見込んだらいいのか悩んでいるという、そういう現状認識です。

○**豊田教育委員** ありがとうございます。

○**佐藤政策推進部長** よろしいでしょうかね。

なかなかまだ読みにくいなところがあるので。

○**豊田教育委員** 読めないので、大変ですけども。

○**佐藤政策推進部長** 議員説明会でも議員の方がおっしゃってみえましたがけれども、やっぱり一気にたくさん借りていってとなると、歩いて持っていけないでしょとかいう意見も頂いていますし。貸し借りの仕方というところもちょっと工夫していく必要があるのではないかと考えています。

数馬委員、どうぞ。

○**数馬教育委員** 開館時間と閉館時間というのは、今の中央図書館の時間帯とこの駅前に移ったときとで変わるのでしょうか。

○**佐藤政策推進部長** 私がしゃべっていいのかどうか分かりませんが、すみません。

やはりこういう駅前の立地ということで、当然職場帰りとか学校帰りとかいうところまで寄っていただく、利用していただく可能性を高めていかないといけないということから考えますと、やはり他市の駅前なんかの図書館の事例を見ていまして、夜の8時とか9時とかいったところまで何とかやっていけるような運営というのは当然考えていくべきだろうなと思っています。

○**数馬教育委員** ありがとうございます。

私の会社のスタッフ、30代ですけれども、通勤ですごく楽しみにしているんですね。

○**佐藤政策推進部長** そうですか。ありがとうございます。

○**数馬教育委員** 今までは四日市の図書館へ行く機会がなかったけれども、これからは帰りに寄れますかねという質問を受けています。

そういう若者がたくさん増えるといいことだなと思って、ぜひ時間を。夜の部というか、閉めちゃうところがあっても構わないので、夜も利用できるようになると、とっても喜ぶ人たちが大勢いると思います。

○**佐藤政策推進部長** ありがとうございます。

その辺はしっかり考えていきたいなと思っています。

鈴木委員、どうぞ。

○**鈴木教育委員** せっかく新しくできるということで。

今までの図書館だと、もちろん駐車スペースも限られていますし。中学生、高校生だと行きやすいかなとは思うんですけれども、小学生だと、保護者と一緒じゃないと行きにくかったりとかするところが、電車やバスを使用して図書館へ行く。

今子供たちも、タブレットとかスマホとかで調べようと思ったら調べられることがたくさんあると思うんですけれども、やっぱり出向いて調べるようにしてもらえそうな魅力ある仕様にしていただけると、子供たちの探求心とかも育っていくのかなと。

あとは、図書のボランティアの方もたくさんいらっしゃって、読み聞かせとかを常に行っていただいています。コロナで、今はなかなかできないと思うんですけれども、新図書館ができる頃には、赤ちゃんや小さい子を連れていっても、親も一緒に楽しめるようなスペースづくりをしていただけると。小さい頃から本に親しむということで、これから先も子供たちが利用したりとかできるのかなと。

親も、子育てが終わってから、また自分の時間ができたわと行けるような、そういう新しい図書館をつくっていただけたらいいなと思います。

それと、前のスターアイランドがあったときの近鉄からの通路ですか、歩行者デッキもまた同じような感じにはなるのでしょうか。

○**佐藤政策推進部長** 今のは、歩道橋みたいなものの件だと思うんですけれども、あれをそのまま使うかどうかまではわかりませんが、今のところ、まだ残してあります。歩道橋ではないですけれども、残してあります。

あと、中央通りの再編の中で、駅前に、駅東側にぐるっと丸く円形の歩行者デッキみたいなものができます。そのデッキから2階、デッキレベルぐらいから新しい建物に直接入れるような接続をしていくということで、その辺はしっかりと都市整備のほうとも調整しております、きちっと入れるように双方合わせて設計していくという格好でございます。

**○鈴木教育委員** ありがとうございます。

**○佐藤政策推進部長** それからもう1点の、調べてということで探求心の養成をみたいなお話ですけれども、まさしく先ほど伊藤委員からもそういうことをおっしゃっていただいたと思っていますので、その辺もしっかりと対応していくことが必要かなと思っています。

**○伊藤教育委員** それに関係してですけれども。これからの図書館ができていく中で、自分たち教育に関係する者として、学校図書館との協力というのか連携というのか。

今も、資料を紹介してもらったり一部貸していただいたりとか、なのはな文庫ということで、読む環境を学校への支援、応援みたいな形でしていただいているということで、以前よりは学校との連携体制が徐々にできてきているとは思っています。

ただ、やはり学校図書館もこれからのいろんなニーズに合わせて考えていくと、インターネットでも調べたりという環境は大きくなってくるとはいえ、やはり体系的にいろんなことが整備されているという意味では、図書館というのは非常に重要で。そういう意味で、学校図書館の連携を今後どんなふうにしていくかということも、この図書館整備に合わせて考えていくと、学校図書館の可能性を通じてだとか、互いが協力する中で子供たちの教育の対応を幅広くしていったり、深くしていったりということにつながるかなと思うので、ぜひその点も、計画といいますか、考えていただく中で一つの視点にさせていただけたらなと思います。

**○佐藤政策推進部長** ありがとうございます。

学校図書館との連携はということですが、そのあたり、教育長、何かご意見ありますか。

**○廣瀬教育長** 私、図書館には思い入れがすごくあるというか。中学校1年のときに今の図書館ができて、夏休みに毎日行っていたんです。

四日市の図書館として、都市イメージの子育て・教育安心都市というようなところに関わるものであり、31万都市の文化的な意識の醸成に直結するものなので、本当に夢のある図書館というか、子供が夢を感じる、親も子供に夢を託せるような図書館にしてほしいですし、特に中高生の知的好奇心を刺激するような。図書館へ本を読みに行くという目的

の子だけじゃなくても、四日市の町に来たついでに図書館に足を運んだときに本を手に取りたくなるとか、そういった空気に触れたいかなものになるといいかなと思っています。

学校図書館との連携については、今もやっていただいております。学校の蔵書にも限りがありますので、今は物流でやっていますけれども、電子情報、電子図書とかの共有もできたりすると、子供たちはタブレットを持っていますので、そういったものを活用しながら、調べ学習やら自分の興味・関心のものに出会えるような環境が整っていくと、よりいいのかなと思います。

バリアフリーの観点でも、デジジーであるとか電子図書で解決できる部分がたくさんございますので、そういった様々な分野での学校への連携というのは大事にしていっていただくといいかなと思っています。

教育委員会としても、社会教育が市長部局に移管する中で、社会教育における活動の、学習した機会の発表の場であるとか、そういった活動の機会の提供の場。また、多世代交流機関も併設されるといったことになると、例えば大人の知の情報の拠点であったり文化発信の拠点で、高校生の文化的な活動とか大人のボランティアとか、NPOさんとかいったもののいろいろなものの発信力のある場にもなって、人が集うといったことでターミナルに立地する強みというのが出ていくのかなと。あらゆる人々の関心に門戸を開けるような、そんな図書館になっていくといいのかなと私は思っています。これは個人的な意見です。

**○佐藤政策推進部長** ありがとうございます。

社会教育活動の拠点としての機能になるようにということは大事なことだと思いますし、学校図書館との連携というのも当然やっていく話になるでしょうし。

まだ具体的な話はしていないですけれども、うちの市立の図書館だけでなしに、例えば他の市町村なんかの図書館とかいったところの連携といいますか、そういったことも視野に入れて考えていく必要はあるのかなと思っています。

今はハードの話の入り口に入ったばかりでございますので、ソフト面での検討がまだこれからということでございますので、ご意見を参考にさせていただきたいと思っております。

ほかにいかがでしょうか。

この際ですので、何でも結構でございます。

市長、何かございませんか。

**○森市長** 私から、教育現場のことをこの場でお話しさせてもらうことが多いんですけれ

ども、今回は市長部局から、いろいろご意見を頂くという形でテーマ出しをさせていただきました。

スターアイランドの跡地で構想を進めているところなので、私はすごく期待しています。市民の方も、新しい図書館に対する思いというか期待感というのは、非常に大きいものを感じています。

近鉄グループとの折衝の末ですので、まだまだ確定ではないですけれども、部長からもあったように、近鉄グループとしても設計業者を設けて、我々も設計業者を設けて、4者で協議をしているところです。少し遅れているという報道はありますけれども、前には進んでいるという状況なので、この状況をしっかりと煮詰めていく必要があると思っております。

場所が中心部になりますので、すごくいい効果もありますし、逆に、今ある場所を利用しての方が利用しにくくなるというデメリットも多少なりともあるのはわかっています。新しい方々を大きく取り入れていって、今利用されている方が離れていかないように、いかにしていくのか。これがまた駐車場問題になってくるんですけれども、これは非常に大変な課題であって、これからまたしっかりと詰めていきたいと思っております。

図書館も、普遍的な図書館の意義というのがある一方で、やっぱり時代とともに図書館に求められるものは変わっていくと思うので、前回、基本構想を立てた段階から数年たっていますから、どんどん時代が変わっていくので、アップデートしていきながら、全国でも先進事例と言われるような中身も盛り込んでいきながら、いい図書館にしていきたいと思っております。

先ほど部長からあったように、ハード面をまず決めないと、ソフト面がなかなか進んでいけないという部分はあるんですけれども、中心市街地の再開発プロジェクトが、2027年までに一定程度仕上げるという構想にしていますから、もちろんこの図書館、また、近鉄グループが建てられるビルというのも27年までには完成してほしいという強い思いがあります。

決まってしまうと一気に進んでいくという可能性もありますので、やはりソフト面においても、皆様方のご意見含めて、しっかり固めていく必要がある段階ですので、教育委員の皆様には様々なご意見を頂いて、しっかりと組み立てられるような材料というのは私も蓄積していきたいと思っておりますので、ぜひともよろしくお願いいたします。

様々な図書館との連携というのも、部局横断的にまた展開していきながら、構想を練っ

ていきたいと思えます。もちろん、市民サービスの向上が第一にありますので、いい図書館にするという目標に向かって頑張ってもらいますので、また頃合いを見て報告してもらえたらと思います。

**○佐藤政策推進部長** また節目節目で動きの段階ではご報告させていただいて、その都度ご意見は頂きたいなと思っていますので、引き続きまた、継続案件としてよろしくお願ひします。

**○森市長** 議会には、本来であれば来年度、令和4年度の当初予算に基本設計予算を上げる予定だったんですけども、まだそこまで至っていないということで、来年度の補正予算ということで考えていますので、来年度のどこかのタイミングで予算を上げていくことになると思えますけれども、前提としては、それぞれの協議のもと、合意があった上での進捗になりますので、しっかりと近鉄グループからの条件も見定めながら判断していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

**○佐藤政策推進部長** 四日市市も、本格的に民間の方と合築で施設を建てていこうかというのが、多分これが初めてだと思うんですね。民間には民間さんなりのやり方もあるでしょうし、管理の仕方もあると思えますので、その辺きっちり、段階を追って一つずつ抑えていかないと。一気に話を進めて、途中でどうしようもなくなってもいけませんので、その辺はしっかりと、前向きにはしながら、慎重にきちんと抑えてやっていきたいなということで進めていきたいと思っています。

あと、いかがでしょうか。

どうぞ。

**○豊田教育委員** ちょっと話を戻してしまって申し訳ないです。

この新図書館のコンセプトは何ですか。

**○佐藤政策推進部長** サードプレイスというか、滞在できる。

**○田中政策推進課課長** 中心市街地拠点施設の整備基本計画という中に、滞在型図書館と掲げてございます。滞在というところの真意としましては、サードプレイスという言葉も上げておるんですけども、職場とか学校とか家というだけじゃなくて、第三の居場所としての機能を果たすというところなんです。

機能的には、ICTとかいったものにも対応しながら、あらゆる世代を対象として受け入れていくというか、それぞれのニーズに応えられるような空間構成をしていきたいというところを基本的な考え方として位置づけてございます。

今回も、新しい近鉄との合築といいますか、そちらの建物の中に入るといって、その機能を生かすようにどうはめていくかということを考えていきたいということです。

**○廣瀬教育長** 滞在型のイメージですけれども、従来の僕のイメージだと、朝から晩までずっとおるみたいな滞在のイメージがあるんですけども、先ほど数馬委員が言われたように、仕事帰りに寄れるとか、塾の行きにちょっと時間があるからそこで勉強させてほしいとか。立ち寄って、少し時間をゆったりと過ごせたり、いい空間で時間を過ごせるといったような、ハブ型の図書館の仕様にしてあると、なおいいんじゃないかなと思います。

利用者の利用時間は限られますけれども、多くの人たちが通えるというか、足を運べるような環境になっていくと、よりいいのかなと思います。

**○佐藤政策推進部長** まさしくそういった気軽に立ち寄れるというか。ある年代の方に限らず、いろんな年代の方が気軽に立ち寄っていただけるような。それを目指して、基本計画を数年前にやったときからそういう格好でやっていますので。

**○伊藤教育委員** そういう意味では、以前出された滞在型のところに書いてある3つの基本理念。生涯学習の場づくりであり、子供たちが読書を楽しむ環境づくりであり、新たな情報や人に出会える居場所づくりは、基本的にはそのまま引き継がれるのでしょうか。

**○田中政策推進課課長** 特に変わらないです。

**○佐藤政策推進部長** そういった形で、例えば多世代の交流ということで、交流できるスペースとかいったものを設けていきたいなと考えています。

**○数馬教育委員** ちょっと時間があって、ゆっくりできるところで本を読んだりというので、昔は喫茶店をよく利用していました。今は本当に慌ただしくて、喫茶店というのがなくなっていますから、高齢者だと恐らく、家の中だけではなくて、何か手段を使ってちょっと一服するというか、ゆっくりしてくつろげる場所という感じが駅前だとできるんじゃないかなと思って。そういうところが中に、図書館のスペースの中にいろいろ考えられて書かれてあるので、十分お考えの中にはあると思うんですけども、とても期待できる場所かなと思っています。

**○佐藤政策推進部長** 図書館のフロアの中に直接そこまで入ってくるかどうか、それはどちらがいいのかということも含めて検討しておりますし、当然、図書を読みながら、ちょっとコーヒーでも飲みながらということもできるような利便施設の入居といったことも。当然今いろいろな図書館へ行ってもやっぱりそういうところがございますし、この今回の企画においても当然考えていくということでやってございます。

あとはよろしいでしょうか。

教育委員会の事務局、よろしいですか。

図書館に関していろいろ貴重な意見を頂きましたので、そのあたり、しっかりと参考にさせていただいて進めていきたいと思ひますし、先ほど申しましたように、進展に依りましてご報告させていただきたいと思ひます。

それでは、図書館の議題についてはここまでとさせていただきたいと思ひます。

### 3 その他

○佐藤政策推進部長 その他ということでございますけれども、何かございますか。特によろしいですか。

委員の皆さんもよろしいですかね。

朝早くからお集まりいただきまして、どうもありがとうございました。

これにて第2回目の総合教育会議を閉会させていただきたいと思ひます。どうもありがとうございました。